

新潟水俣病関連情報発信事業の最近の取組

■新潟水俣病情報発信事業

新潟水俣病の教訓を県民に広く普及啓発するため、民間団体等が提案する新潟水俣病の教訓の情報発信を行う事業に対し、補助を実施します。

【H30 年度】

- 3 団体 3 事業に補助（公募）

〔補助事業〕

- 新潟大学

「新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム」

連続講座と現地学習を組み合わせることで、学生の新潟水俣病問題に関するリアルな問題意識を涵養し、同問題への主体的・自主的な学習を促す。

また、本講義・実習で得られた課題認識を広く一般市民に向けて発表するための報告会を開催する。

- ・ 学内にて連続講座の実施
- ・ 阿賀野川流域現地学習の実施
- ・ 水俣市での現地学習及び報告会の実施
- ・ 事業主体共同の成果発表の実施



（講義、阿賀野川流域現地学習の様子）

- 新潟県立大学

「新潟水俣病情報発信の高度推進」

世代を越えて新潟水俣病を語り継ぐため、学生と教員が一体となり、水俣病について学ぶフィールドワークを取り入れた授業を行う。

また、学内にある水俣病関連情報コーナーを活用しながら、学生や地域住民が自主的かつ自然に新潟水俣病に関する知識を修得できるようにするとともに、阿賀野川流域及び新潟が持つ・持っていた「豊かさ」を実感できるよう、学祭企画、ワークショップ等を実施する。

そして、活動の成果発表を行うため、事業主体共同のシンポジウムを実施する。

- ・ 阿賀野川流域視察研修の実施
- ・ 水俣市周辺学生訪問の実施
- ・ 外部講師による特別講義の実施
- ・ 大学祭における展示発表・講演会の実施

- ・ ワークショップの実施
- ・ 記録集等の作成
- ・ 事業主体共同シンポジウムの実施

○ 新潟医療福祉大学

「新潟水俣病と共に生きる社会づくり推進事業

一次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成」

学生による患者支援と地域で新潟水俣病患者を支える社会づくりに向けた地域貢献活動の基盤づくりを行う。

平成30年度は、県立環境と人間のふれあい館、患者と学生との意見交換会や交流活動（健康教室を含む）を行う。

また、平成30年度から「新潟水俣病の理解」のカリキュラムを実施することから、患者の方々の主観的体験の事実の聴き取りをとおして「語り」の記録化に向けた取組に着手する。

- ・ 県立環境と人間のふれあい館等との連絡会の開催
- ・ 新潟水俣病に関する事前学習プログラムの実施
- ・ 新潟水俣病患者との交流プログラムの実施
- ・ 新潟水俣病患者への聴き取りの実施
- ・ 熊本県水俣市における現地学習プログラムの実施
- ・ 新潟県民に対する情報発信事業報告会の実施

(参考)

【H27年度】

○ 3団体3事業に補助（公募）

[補助事業]

○新潟大学

「新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム」

新潟水俣病を正しく理解し関心を持つ一助とするため、学生を対象とする連続講座を開設。新潟水俣病に関する問題意識を涵養するとともに、教訓を未来に語り継ぐ主体的な取組を促す。

- ・ 10月から12月にかけて、講義、阿賀野川流域現地学習、水俣市訪問及び報告会を実施



(新潟大学の講義、現地学習の様子)

○新潟県立大学

「新潟水俣病情報発信の活性化」

水俣市における水俣病の情報発信施策等を新潟水俣病の情報発信につなげることができないか、講義や訪問を通じて考察を行う、フィールドワークを取り入れた授業を開設。

学生が自主的かつ自然に新潟水俣病に関する知識を修得し、また、阿賀野川流域の持つ豊かさを実感できるよう、昨年度に設置した自主学習の場《Self-Access Learning Center (SALC)》の新潟水俣病関連情報コーナーを活用しながら、継続的かつ恒久的な学習を可能とする。

- ・水俣市への訪問及び報告会を実施
- ・阿賀野川流域にて現地学習を実施
- ・大学祭における展示発表を実施
- ・記録集の作成、発行を予定

○新潟医療福祉大学

「新潟水俣病と共に生きる社会づくり推進事業

一次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成」

小学生・中学生・高校生・大学生などの若い世代が「新潟水俣病と共に生きる社会づくり」に連携して取り組む機会を設けるなど、新潟水俣病を取り巻く現実への理解の推進を図る。

- ・11月25日に阿賀野市において新潟水俣病患者との交流会を実施
- ・水俣市での現地学習を実施予定
- ・取組の成果を広く県民へ発信するため、事業報告会の開催、事業報告書の作成を予定

【H28年度】

○3団体3事業に補助（公募）

〔補助事業〕

○新潟大学

「新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム」

新潟水俣病を正しく理解し関心を持つ一助とするため、学生を対象とする連続講座を開設。新潟水俣病に関する問題意識を涵養するとともに、教訓を未来に語り継ぐ主体的な取組を促す。

- ・6月は教養科目として、10月から12月にかけては専門科目として、講義、阿賀野川流域現地学習、水俣市訪問及び報告会を実施



（阿賀野川流域学習の様子）

○新潟県立大学

「新潟水俣病情報発信の高度推進」

世代を越えて新潟水俣病を語り継ぐための研究と教育を通じた人材育成のため、水俣病について学ぶフィールドワークを取り入れた授業を開設。

学生が自主的かつ自然に新潟水俣病に関する知識を修得し、また、阿賀野川流域の持つ豊かさを実感できるよう、一昨年に設置した自主学習の場《Self-Access Learning Center (SALC)》の新潟水俣病関連情報コーナーを活用しながら、継続的かつ恒久的な学習を目指す。

- ・水俣市への訪問及び報告会を実施
- ・阿賀野川流域にて現地学習を実施
- ・大学祭における展示発表を実施
- ・記録集の作成、発行を予定

○新潟医療福祉大学

「新潟水俣病と共に生きる社会づくり推進事業

ー次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成ー」

学生による患者支援と地域で新潟水俣病患者を支える社会づくりに向けた地域貢献活動の基盤づくりを行う。患者同士並びに患者と学生との交流を促進し、患者が気軽に集まることのできる場の形成や、社会参加に向けた意欲を醸成する。

- ・水俣病患者との座談会を実施。
- ・水俣市での現地学習を実施
- ・取組の成果を広く県民へ発信するため、事業報告会の開催、事業報告書の作成を予定

【H29 年度】

○ 3 団体 3 事業に補助（公募）

〔補助事業〕

○ 新潟大学

「新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム」

連続講座と現地学習を組み合わせることで、学生の新潟水俣病問題に関するリアルな問題意識を涵養し、同問題への主体的・自主的な学習を促す。特に今年度は新聞社と協力し、学生が学んだ内容等を紙面にて発表することで、広く県民に情報発信を行う。

- ・ 10 月から 11 月にかけて、講義、阿賀野川流域現地学習、水俣市訪問及び報告会を実施



（講義、阿賀野川流域現地学習の様子）

○ 新潟県立大学

「新潟水俣病情報発信の高度推進」

世代を越えて新潟水俣病を語り継ぐための研究と教育を通じた人材育成のため、水俣病について学ぶフィールドワークを取り入れた授業を行う。

学生や地域住民が自主的かつ自然に新潟水俣病に関する知識を修得し、また、阿賀野川流域及び新潟が持つ・持っていた「豊かさ」を実感できるよう、継続的な学習や、学祭企画、ワークショップ等を実施する。

- ・ 水俣市への訪問及び報告会を実施
- ・ 阿賀野川流域にて現地学習を実施
- ・ 大学祭における展示発表を実施
- ・ 記録集の作成、発行を予定

○ 新潟医療福祉大学

「新潟水俣病と共に生きる社会づくり推進事業

一次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成ー」

学生による患者支援と地域で新潟水俣病患者を支える社会づくりに向けた地域貢献活動の基盤づくりを行う。

患者と学生との交流活動や健康教室の実施、また、平成30年度から「新潟水俣病学」のカリキュラム化を予定していることから、患者の方々の主観的体験の事実の聴き取りをとおして「語り」の記録化に向けた取組に着手する。

- ・ 水俣病患者との座談会及び足湯を用いた健康教室を実施
- ・ 水俣病患者からの主観的体験の聴き取り
- ・ 水俣市での現地学習を実施
- ・ 取組の成果を広く県民へ発信するため、事業報告会の開催、事業報告書の作成を予定